

食べ継がれる、さつまいも

～イベントの場における継承の一考察～

さつまいも伝道師

いもりん

(みやおか まゆ)

はじめに

“食べ継ぐ”とは、ということなのだろう。日本には、地域の風土や気候に合わせ、長い歴史をかけて受け継がれてきた多様な食がある。さつまいももまた、江戸時代に伝来し、救荒作物として人々の命を支え、各地で品種改良や郷土料理への活用など、独自の発展を遂げてきた。この歩みを踏まえ、さつまいもそのものを、食べ継がれてきたものとして捉えたい。

では、暮らし方や食との関わりが多様化する現代において、食を未来へつなぐには、どのような場が求められるのだろうか。この問いを考える手がかりとして、“イベント”に着目する。社会学者の中川(2017)は、イベントという非日常的な経験が、参加者にとって“自己認識の発展”の機会になり得る可能性を指摘した。また、イベントは、創り手と受け手との関わりの中で“気づき”に基づく楽しさを生み出す機会にもなり得ると論じた。

近年、全国各地で、さつまいもをテーマとしたイベントが開催されている。そこでは、各地のさつまいもフードを味わうだけでなく、生産者や作り手との出会い、展示やワークショップでの学びなど、多様な体験が生まれている。

本稿では、『品川やきいもテラス』と『さ

つまいも博』の二つの事例から、“さつまいもを食べ継ぐ場”とは何かを考察する。

1. 品川やきいもテラス

『品川やきいもテラス』は、2017年に始まった。2026年には、品川シーズンテラスおよびコクヨ“THE CAMPUS”を会場に、全国各地の焼き芋屋17店舗が出店した。累計20万人以上を動員し、現在は主催の品川シーズンテラスとプロデューサーの天谷窓大さんが企画・運営を行っている。本稿では、天谷さんにお話を伺った。



プロデューサーの天谷さん(左)と筆者のいもりん(右)

「焼き芋は人生を救われた食べ物の一つ」と、天谷さんは振り返った。その経験を原点に、“焼き芋に恩返しをしたい”という思いから、本イベントの立ち上げより携わってきた。「当初は、焼き芋の進化を伝

えることを重視していた。今は、焼き芋で魔法がかかるような空間づくりや、焼き芋の魅力が伝わる場づくりを目指している」と述べた。イベントでは、焼き芋の背景にある人や思いに触れる機会を設けている。



会場：『品川やきいもテラス 2026』
(写真提供：品川シーズンテラス エリアマネジメント事務局)



休憩スペース：こたつ席（左）・ボックス席（右）
(写真提供：品川シーズンテラス エリアマネジメント事務局)



伝言ボード：来場者が、お店の魅力ポイントを書き残している
(写真提供：品川シーズンテラス エリアマネジメント事務局)

焼き手のプロフィール紹介や店舗キャッチコピーの公開、出店者との座談会ポッドキャストの配信などだ。ポッドキャストについては、「焼き芋を待つ時間も楽しんでもらいたい。また、アーカイブとして残ることで、イベント終了後も出店者や焼き芋とのつながりが続いてほしい」と語った。空間面では、野外こたつやボックス席の設置も工夫のひとつだ。また、「近年は“焼き芋を楽しむ”から“焼き芋で楽しむ”へと変わってきている」と、その変化を語った。

さらに、来場者の“焼き芋リテラシー”の高まりも感じていた。「推しの品種や産地を目当てに来場される方もいて、出店者も期待に応えようと工夫を重ね、良い循環が生まれている」と明かし、「ここで過ごす時間が、思い出づくりに繋がると嬉しい」と話した。また、品川シーズンテラスの入居オフィス、“THE CAMPUS”内にあるコクヨのオフィスへ会場から出来立ての焼き芋をデリバリーする企画も実施し、“焼き芋で楽しむ”場を広げた。

運営者と出店者は、立ち上げ以来、“同じイベントを共につくる仲間”として関係を築いている。「これからどう面白くしていこうか。」と対話を重ねていると述べた。

2. さつまいも博

『さつまいも博』は2020年に始まり、冬と夏を中心に開催されている。これまでに累計45万人以上を動員し、2026年冬開催では、幕張メッセを会場に全国31店舗が出店した。会場には、300品以上の焼き芋やさつまいもスイーツ、食事系フードが並んだ。本稿では、実行委員長の石原健司さんにお話を伺った。



実行委員長の石原さん（左）と筆者のいもりん（右）

石原さんは、「最初は、さつまいもの可能性に魅せられイベントを企画した」と振り返った。第1回開催後は、メンバーで栽培に取り組み、生産者を知るため全国各地の産地を訪れた。その中で、農業従事者の高齢化や担い手不足などの課題に触れた。“課題解決のため、イベンターとして何ができるのか”を考え続けた末、「さつまいものイメージを変えることなのではないか」との考えに至った。そして、イベントをそのためのアプローチと捉えた。

その思いは、イベント内容にも反映してきた。「来場者には、美味しいだけではなく何かを持ち帰ってもらいたい」と語った。参加型の『全国やさいもグランプリ』では焼き手の技術や工夫を、『日本さつまいもサミット』では生産者の取り組みや魅力を伝えている。さらに、ワークショップやステージ、展示などを取り入れ、“サツマイモ展 ダーウィンと見る『日本のサツマイモ』”を開催した。出店者には新作メニューの開発を求めるなど、さつまいもの新たな魅力を引き出す試みも続けてきた。イベントをつくり上げるため、運営者と出店者が方向性を共有するためのミーティングは欠

かせない。

コロナ禍を経て、来場者がファミリー層にも広がる中、さつまいもの有識者や県の



会場：『冬のさつまいも博 2026』
(写真提供：さつまいも博実行委員会)



表彰式：『日本さつまいもサミット ファーマーズ・オブ・ザ・イヤー2025-2026』名誉委員長・山川理先生（左）と受賞者たち
(写真提供：さつまいも博実行委員会)



展示：“サツマイモ展 ダーウィンと見る『日本のサツマイモ』”
(写真提供：さつまいも博実行委員会)



展示:来場者参加型
(写真提供: さつまいも博実行委員会)

協力も得ながら、来場者のニーズに応じた企画を複層的に組み合わせ、回を重ねてきた。

「日本のさつまいもの美味しさや栄養、美容といった多面的な価値に加え、かわいい、格好いいという新たなイメージを届けることで、その魅力をより多くの人へ広げていきたい」と語った。

おわりに

“食べ継ぐ”ことは、時代とともにその形を変えながら続いてきた。かつては、土地の風土や暮らし、先人の知恵や工夫の中で育まれ、ときには生きることと深く結びついていた。一方、現代では、社会やライフスタイルの変化に伴い、その理由やきっかけは多様化した。食べ継ぐ場とは、さつまいもを食べることだけではなく、そこで得た体験や感動が、「また食べたい」「誰かに伝えたい」という気持ちを生み、人から人へと受け渡されていく。これは、現代ならではの受け継がれ方なのかもしれない。

今回取り上げた二つのイベントは、物価変動の波を受けながらも、さつまいもとの新たな関わり方を時代に合わせて工夫し、

継続されてきている。筆者自身、両イベントに参加し、出店者や来場者との出会い、そして多様なコンテンツを通して、その場ならではの魅力を実感している。『品川やきいもテラス』では、野外こたつで焼き芋を味わい、相席となった親子が、焼き芋を幸せそうに頬張る姿が印象に残っている。焼き芋そのもののおいしさだけでなく、その場に生まれる空気や笑顔が、体験をより豊かなものにする。

『さつまいも博』では、初めて出会うさつまいもの食事メニューに驚き、その自由な発想から新たな世界が広がった。また、生産者が登壇するステージ企画では、栽培への思いや工夫が語られ、さつまいもの背景にいる“人”の存在を意識する機会となった。生産者の考えや背景に触れ、さつまいもを口にすると、その向こう側にいる人や産地、イベントで過ごした時間が、自然と思い起こされることがある。

イベントの創り手が場をひらき、出店者は商品の魅力を届け、新たな出会いを生み出す。来場者は味わい、楽しみ、時に考え、その体験を誰かと共有する。こうした営みは、“さつまいもを食べ継ぐ”扉を、私たち自身がひらくことのできる、豊かで貴重な機会となるのではないだろうか。

謝辞

本稿の執筆にあたり、『品川やきいもテラス』プロデューサーの天谷様、『さつまいも博』実行委員長の石原様に、貴重なお話とご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

コラム 一味わイモな絵本 vol.3—

『やきいもやゴンラ』

作：ながいいくこ、絵：くすはら順子

職人ゴンラのやきいもに向き合うひたむきな姿勢に、胸が熱イモ！な一冊。

物語の舞台は、大草原の真ん中にある「ゴンラのやきいもや」。店の前には、動物たちの長い行列ができています。しかし、待てど暮らせど店は開かない。開店を待つ動物たちは、ゴンラの焼くやきいものおいしさを語り合う。ゴンラが大切にしているさつまいもという素材や、焼くことへのこだわりが描かれる。

そして、ついにゴンラが焼き上げたやきいもが、ほかほかと湯気を立てて、待ちわびた動物たちの前に登場する。

やきいもは、出来上がりを待つ時間さえも、おいしさの一部なのだろう。湯気や香りまで伝わってきそうな絵を眺めていると、思わずごくりと喉が鳴る。読み終えたあとには、やきいもを頬張りたくなる。温かな余韻とともに、何かを極めることの奥深さを、そっと教えてくれる物語である。



『やきいもやゴンラ』

作：ながいいくこ、絵：くすはら順子（ポプラ社）

参考文献

中川和亮, 『イベント研究の方法論的検討：非日常経験と日常生活の連続性に注目して』, https://www.lu-tokyo.ac.jp/~slogos/archive/41/41_nakagawa.pdf, ソシオロゴス (41), 2017年10月, p81-p94, (参照2026年08月09日).

ながいいくこ（作）／くすはら順子（絵）（2018年）, 『やきいもやゴンラ』, ポプラ社.